

▶ 高校3年生がFIGクアラルンプール会議に参加

本号に掲載されている世界測量者連盟 (FIG) のクアラルンプール会議に日本から一人の高校生が参加していた。日本代表で会議に出席していた村井俊治・当協会会長が関心を抱いて声をかけたとのことである。本誌は、測量界について若者にも大いに関心を持ってもらいたいという観点から、改めて取材をしたので報告する。



山口県下関市
清水 皓太くん

●高校3年生とのことですが、FIGの会議に出席してみようと思った動機を教えてください。

父が土地家屋調査士をしているのですが、その仲間でFIGに行かれる方に誘われたのが、きっかけですね。

しかし、誘われたから何気なく行った訳ではなく、世界レベルの測量者の会議がどんなものなのかを自分の目で確かめ、日本を世界の測量者達にアピールしたかったので、出席しようと思いました。

●出席してみたいかでしたか。

私は英語があまり上手ではない上に、まだまだ測量者としては、未熟な面が多々ありますので、技術的な事は理解するには至りませんでした。

しかし、出会った人には名刺を渡し、

"I am a Japanese!"

"I am seventeen years old of high school student!" とひたすら言い続け、最後には自己紹介と、自らの夢についてアジア圏の測量者が集まる会議 (Young Surveyor Forum) で、前に出て発表することができました。

このように、若いからできる事を探し、現地で実行できたので、「世界の測量者に日本をアピールできたのでは……?」と思うと、出席して良かった! と、感じますね。

●国際測量者連盟という組織ですが、こうした仕事について関心はありますか?

世界の測量界の動きが今回のFIGの会議で少し理解できた今、気になって仕方がないですね。

やはり、国内ばかり見ていると、測量技術の進歩の幅が狭まるような気がしてならないので、もっと積極的に他国の良い技術を輸入し、逆にこちらの良い技術を輸出していければ、と思っています。

そのような仕事に携われる機会があれば是非とも参加してみたいですね!

●将来の夢があったら教えてください。

GPSやGISなどの次世代の測量技術を駆使できるようになって、高精度で、境界紛争が二度と起きないような測量をし、土地や建物に関して困っている人々の力になることですね。

正直な話、私は、測量系の仕事に就けるだけでも、夢が

叶ったというほど測量が大好きです。

しかし、衣食住の中の住をサポートするこの重要な職業に、ただ、好きなだけで就いては、人々の生活を脅かしてしまうかもしれません。

なので、やるからには人々の生活を第一に考え精一杯、業務をこなそうと思っています。

今はひたすら夢に向かって全力疾走あるのみです!

●高校では何を勉強していますか?

実は、山口県の県立豊浦高等学校という進学校に在学しているので測量の勉強はしていません。本当は工業高校の測量系の科に進学したほうが良いのですが、高校までの一般教養は学んでおいて損はないと思ったので今の高校に進学しました。その代わりに、放課後や、休日は父の測量の手伝いをしています。なので、父が測量の先生ですね(笑)。

ちなみに、去年の夏に測量士補の資格を取得したので、これから放課後は、土地家屋調査士の勉強をしようと思っています。

●お父さんお母さんは、なんておっしゃっていますか?

父は「学校が早く終わった時や休日に仕事を手伝ってくれて、凄く助かっている。自分のやりたい事に全力で向かってくれれば、それだけで良いので、今の気持ちを忘れないでほしい」と言っており、母も同じように、「挫折をしながらでも、いろいろな事に挑戦し、自分のやりたいことを見つけてほしい」と言っています。

●高校の友達には、この会議のことをどのように報告されましたか?

普通の進学校なので、測量の事を知らない人ばかりです。測量の事を話すことができませんでした。

世界に出てみて視野が広がり様々な進路が見えてきたと報告しました。

いつか、普通科高校でも、注目されるような職業に成長させていければ、と常々思いますね……。

電話での取材であったが、なかなか頼もしい若者でした。測量界に関心を持つこういう若い人が、どんどん出てくる魅力ある仕事にしていかなくてはならないなと思った次第である。(編集係)



父親の手ついで観測する清水君